

半導体銘柄に対する強気の見通しを維持

米国ネクストビジョンファンド

(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)

追加型投信/海外/株式

➤ **本レポートでは、当ファンドの投資テーマ例として「半導体」を取り上げます。**また、投資先ファンド「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」における当面の株式市場の見通しと運用方針について紹介いたします。

長期にわたり需要の拡大が見込まれる半導体セクター

テクノロジー分野では、図表1のように、今後の成長ドライバーが複数存在しますが、それらに共通するのは**半導体需要の拡大**です。データセンター向け、産業オートメーション向け、電気自動車(EV)向けなど、様々な場面で**半導体の需要は拡大**が見込まれます。

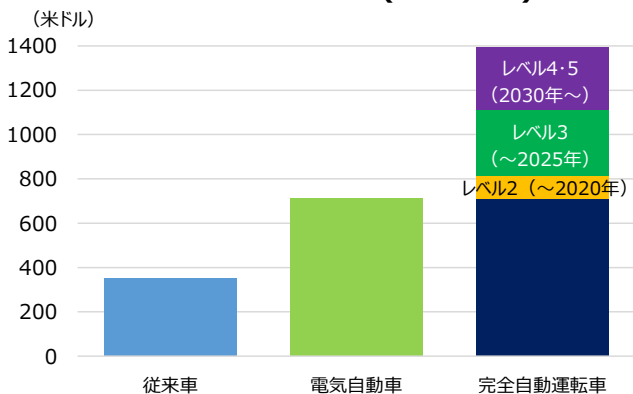
その典型例が電気自動車で、従来の自動車に比べて電気自動車では約2倍、完全自動運転車では約4倍の半導体の使用が予想されます(図表2)。

図表1. テクノロジー分野の今後の成長ドライバー

人工知能 (AI) 高性能コンピューティングへの需要拡大	第5世代移動通信システム (5G) 通信の向上により様々な産業で新しいアプリケーションが実現
クラウド ITの高度化に向けた企業のクラウド採用	デジタル化 (DX) 新型コロナウイルスによりデジタル経済化が加速

(出所)各種資料を基にJ.P.モルガン・アセット・マネジメント作成

図表2. 電気自動車・完全自動運転車(1台当たり)で使用される半導体(金額ベース)



(出所) 2021年1月時点のJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの独自予想数値

半導体は参入障壁が相対的に高い

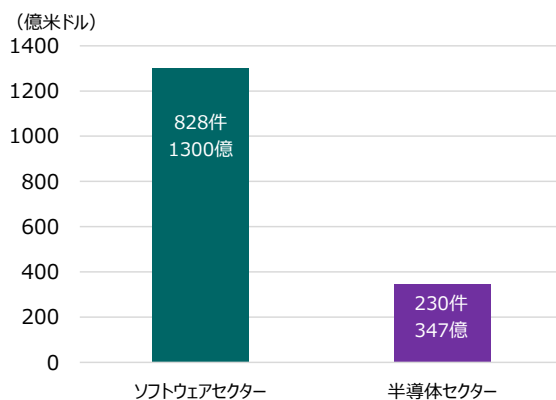
ソフトウェアセクターは、容易な資金調達環境と開発インフラのコスト低下を受けて、参入障壁が低下しつつあると考えられます。

一方、半導体セクターは、多くの産業での利用拡大により需要が複雑化し、製造コストも上昇しているため、新規の参入は困難になりつつあります。そのことは半導体関連企業のIPO(新規株式公開)による資金調達規模を見ても分かります(図表3)。

半導体セクターは市場規模の拡大を少数の企業が享受していくセクターと考えられます。

図表3. 世界のIPO(新規株式公開)による資金調達の状況

(2018年1月2日~2022年8月5日の件数・金額の累計)



(出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

投資先ファンドにおける投資銘柄例のご紹介

シノプシス (業種：ソフトウェア)

運用チームによる銘柄選択の主なポイント

◎ 成長が期待される巨大市場

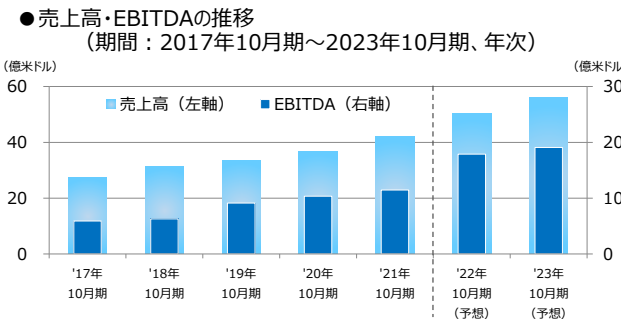
シノプシス社は半導体の設計/検証ツール(EDA:Electronic Design Automation・電子設計自動化)業界の最大手企業です。顧客の需要の多様化を背景に半導体設計の複雑さは増しており、EDAが果たす役割は今後ますます大きくなっていくと考えられます。同社の顧客は、ブロードコム、インテル、エヌビディア、クアルコム、サムスンなど世界の主要半導体関連企業です。

◎ 競争優位性

同社は多くの顧客と複数年契約を結んでいることや、新製品の販売が好調であることから、今後数年にわたる収益の成長が期待されます。中でも、一部の大口顧客や自動車企業では、最先端技術を駆使した高価値半導体の分野において、同社は重要なパートナーとなっています。

同社は、ソフトウェアセクターに属しながらも、半導体関連銘柄としてAIや5G、自動化などの構造的な成長の恩恵を受けると期待される一方、一般的な半導体企業と比べて景気循環色が薄いことが特徴と考えられます。

図表4. シノプシス社の株価と売上高・EBITDAの推移



※EBITDA = 税引前当期純利益 + 特別損益 + 支払利息 + 減価償却費

(出所) Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

当面の株式市場の見通しと投資先ファンドの運用方針

マクロ経済やインフレ、金融政策を巡る先行き不透明感により、変動性の高いマーケット環境が続いています。**米国の景気は減速していくと考えられるものの、今後インフレのピークアウトが確認されることによって、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げペースが緩やかになると期待されることから、テクノロジーセクターの株価に対しては必ずしもマイナス要因になるとは捉えていません。**また、**テクノロジーセクターの株価は、年初来で株価の調整が進んだことを受けて、割高感が後退し、現在は合理的な水準にあると考えています。**

そのような中、テクノロジーセクターの長期的、構造的な収益成長やイノベーションに対する見通しは変わっていません。**今**回復り上げた半導体のテーマもその一つです。**AIやクラウド、自動化、電子決済、消費関連など、あらゆる分野で必要とされる半導体は、参入障壁が高く、優良な企業が多いことから、強気の見通しを維持しています。**一方で、参入障壁が相対的に低いソフトウェアセクターに関しては、足元において玉石混交の状態になっていると考えられることから、収益面で確信度の高い銘柄を厳選し、選別的に投資を行う方針です。

テクノロジーセクター全体として、長期的な需要拡大と成長が期待されるにもかかわらず、市場で過小評価されていると考える銘柄が多くみられています。今後もそのような企業を発掘・投資することで、テクノロジーセクターの成長をとらえる機会を投資家の皆さまに提供すべく、運用チーム全体で尽力していく所存です。

※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。

※本資料の株式市場見通しは、2022年8月5日時点におけるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

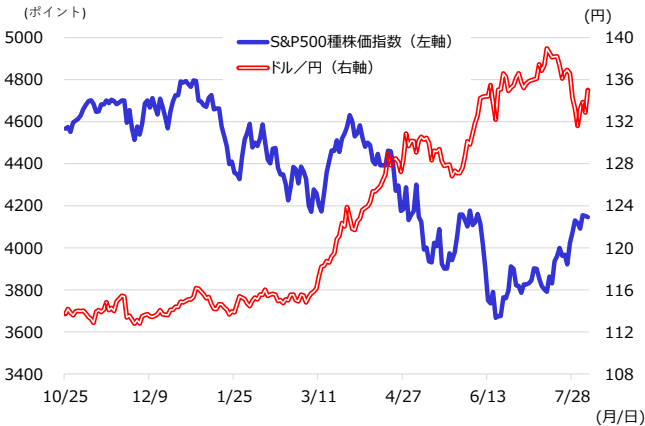
<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

足元の投資環境とファンドデータ

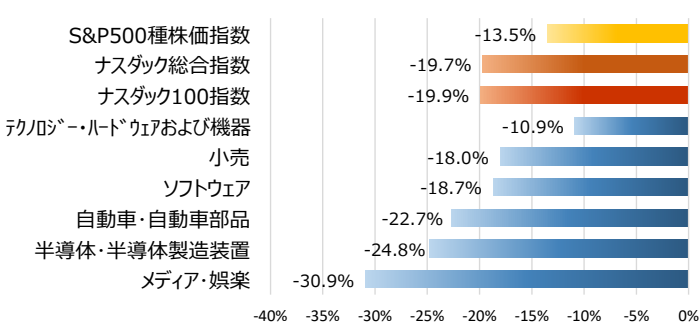
足元の投資環境

図表5. S&P500種株価指数とドル／円の推移
(2021年10月25日～2022年8月5日、当ファンド設定来、日次)



(出所)上記グラフはいずれもBloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

図表6. 年初来の主要株価指数と主要セクターの騰落率
(2021年12月29日終値～2022年8月5日終値)



※セクターは、S&P500ベース、GICS基準(世界産業分類基準)で表示

米国ネクストビジョンファンド (基準日 2022年8月8日)

当ファンドの8月8日の基準価額は、為替ヘッジありが6,978円、為替ヘッジなしが8,385円となっています。

※8月8日の基準価額には、米国現地5日までの動きが反映されています。なお、投資先ファンドは取引時間中の価格で評価を行っているため、引値ベースの動きとは異なる点にご留意ください。

為替ヘッジあり

基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額 (円)	6,978
残存元本 (百万口)	6,804
純資産総額 (百万円)	4,747

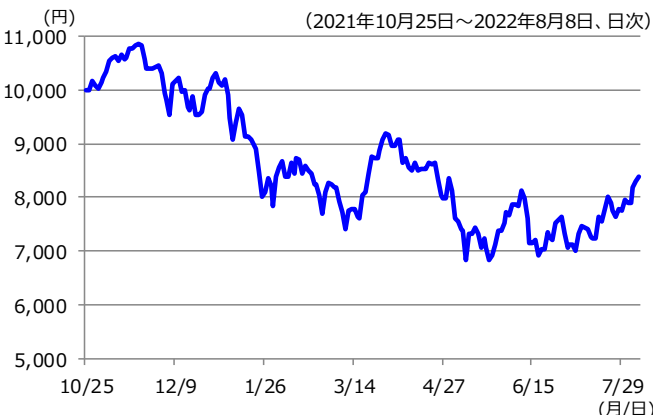
ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド (Iクラス) (円建て、円ヘッジ) (%)	98.0
マネー・リクイディティ・マザーファンド (%)	0.2
短期金融商品その他 (%)	1.8

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

為替ヘッジなし

基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ

基準価額 (円)	8,385
残存元本 (百万口)	111,972
純資産総額 (百万円)	93,890

ポートフォリオ構成比率

JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド (Iクラス) (円建て) (%)	98.0
マネー・リクイディティ・マザーファンド (%)	0.2
短期金融商品その他 (%)	1.8

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

(作成 : 運用本部)

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

米国ネクストビジョンファンドに関する留意事項



【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社
岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様には帰属します。ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
 - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.298%（税抜1.18%）
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×年率1.948%程度
実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

(2022年8月10日現在)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00~17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)